

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
1	全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1	必修		○	○		大学のまなびについて、(1)個人個人の自主自律というその本質を理解し、(2)単位制度、(3)学内施設利用に習熟する一方、(4)予習、復習を含め授業学習にあたって求められている基本的な能力を養う。高等学校と大学の学びの違いを理解し、具体的に自分自身で学習計画を立てて、到達目標に鑑みて、折々に見直し、修正を図れる自主自律性を体得する。			○	○	○
2	全学部共通基盤科目群	自然科学概論	2	選択			○		人間は古来、我々を取り巻く自然の理解に努めてきた。本講義では、歴史を振り返りつつ、人類が到達した現在の自然観について、目に見えない極微の世界から等身大のスケール、更に銀河・宇宙などの極大の世界に至るまでを概説する。自然と人間について深く考える姿勢を培い、3.11後を生きるための基礎的科学知識を身に付けることを目標とする。	○	○			
3	全学部共通基盤科目群	生命現象の理解とその応用・生命科学	2	選択					生命科学は現代人にとり必須の教養であるが、研究や開発のスピードが極めて速いため一般には学ぶ機会が少ない。本講義では、生命の仕組みと、生物の多様性の創出メカニズムについて、生命の本質を科学の視点から理解する。そのうえで、遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生体医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。					○
4	全学部共通基盤科目群	生物からみた環境の仕組み・生態学	2	選択					地球環境を支える「自然」の仕組みを理解するうえで重要な生態学 (Ecology)の基礎を学ぶ。生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史 (生きざま)を知り、生物の多様性やその創出機構、そして生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に着目し、「生態系の中での人間」という視点から環境問題を考えるきっかけとしたい。					○
5	全学部共通基盤科目群	食環境論	2	選択					食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs (持続可能な開発目標)、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいかを考える。なお、毎回講義内容をマインドマップの手法を用いてノートにまとめ、事前・事後学習に役立てる。				○	○
6	全学部共通基盤科目群	香りと環境	2	選択					私たちを取り巻く環境にはさまざまな香り、においが存在している。異なる視点から香りやにおいをテーマに取り上げた新聞記事を読み、その作用や役割を考える。毎回、事前学習・事後学習で自身の意見をワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイデアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。				○	○
7	全学部共通基盤科目群	身体の理解	2	選択					ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の構造や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。					○
8	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	必修				○	情報通信技術 (ICT) の活用するための基礎となる文書作成ソフト、表計算ソフト、発表支援ソフトの使用法の学び、情報の読み書き発信する基礎能力を養う。情報を文字データやプレゼンテーションデータ、数値データとして扱うためのソフトウェアの利用を通して、コンピュータを利用して情報を処理する方法について演習を通して学修する。	◎	◎			○
9	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	選択			○	○	発表に関する資料のまとめ方や、情報通信技術 (ICT) を活用してプレゼンテーションの応用能力を身に付けることを目指す。発表に関する資料のまとめ方や発表支援ソフトの効果的な使い方を習得し、聞き手に分かりやすく情報の発信が可能になるよう、プレゼンテーションに必要なテクニック、方法、発表資料をまとめる方法について演習を通して学修する。	◎	◎			○
10	全学部共通基盤科目群	情報セキュリティA	2	必修					インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するためにあつた前提条件となってきた。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。	◎				○
11	全学部共通基盤科目群	情報社会と情報倫理	2	選択					メディアが社会に与える影響、情報倫理、多様性、プライバシーといった現代の倫理的課題を考察する。また、コンテンツの創作・利用に関わる著作権、肖像権、知的財産権等の法的基礎知識を学び、クリエイターとしての社会的責任を養う。			○		○
12	全学部共通基盤科目群	人工知能論	2	選択				○	AI (人工知能) の基本原理と、AIGC (AI Generated Content) を含むメディア芸術における多様な活用事例を概観する。AI技術が社会やクリエイティブ活動に与える影響を理解し、その倫理的な側面について基礎的な知識を習得する。			○		○
13	全学部共通基盤科目群	データサイエンスI	2	必修		○	○		本講義では、データサイエンスをはじめて学ぶ学生を対象に、データサイエンスの導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展やしるみを学ぶ。基礎では、Excelによるデータ演習を実践する。心得では、データを活用する際の留意事項を学ぶ。最後にはデータをプロジェクトを実践することで、AI時代に必須のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。	◎	◎		○	○
14	全学部共通基盤科目群	データサイエンスII	2	選択		○	○	○	本講義では、データサイエンスIで学んだ内容をもとに、プログラミングの基礎とデータ分析の実践を学ぶ。データサイエンスで主流のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行う。実際に手を動かささまざまなデータ分析を行うことで、データサイエンティストとして第1歩を踏み出すことを目指す。	◎	◎		○	○
15	全学部共通基盤科目群	モデル化とシミュレーション	2	選択				○	コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の大規模化に後押しされ、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本授業では、社会科学と自然科学の分野から幾つかの問題を取り上げて、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実際を学ぶ。	○	◎		○	○
16	全学部共通基盤科目群	プログラミングA	2	選択				○	この授業では、Pythonというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を一から学修する。Pythonの利用方法や特徴、基本的な用語の説明から入り、基本的な入出力操作や、if文やmatch文を使ったプログラムの流れを制御するための分岐構造、複雑な条件分岐における入れ子構造、while文やfor文を使ったプログラムの繰り返し処理や多重ループなどについて学修する。	○	◎		○	○
17	全学部共通基盤科目群	アルゴリズムA	2	選択				○	本講義では、学習初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めて、アルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造 (変数・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など) とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索 (順次探索法・番兵法・二分探索法など) を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。	○	◎		○	
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択				○	情報システムは、経営戦略を考える上で中核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立たせている情報通信技術 (ICT) の進歩は著しい。この進歩に支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎論で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。	◎	○		○	○
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択					統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1. 記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2. 確率変数と確率分布：統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3. 推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。	○	◎		○	○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	
20	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(解析)	2	選択				○	本授業では、微分積分の基本概念を学び、数学的な計算力を養う。前半では、等差数列・等比数列を中心に数列の一般項や和の計算を学び、数列の極限について理解を深める。次に、関数の極限や微分法を学び、関数の変化の特徴を数学的に捉える手法を修得する。後半では、積分法を学び、不定積分・定積分の計算を通じて、面積や体積の求め方を修得する。	○	◎		○	○	
21	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(線形代数)	2	選択				○	本授業では、線形代数の基礎として行列の計算方法とその応用を学ぶ。前半では、行列の基本的な用語を理解し、行列の簡約化や行基本変形を用いた連立1次方程式の解法を修得する。次に、行列の演算（和、スカラー倍、積）や逆行列、行列式の計算を学び、行列の性質を分析する基礎力を養う。後半では、行列の応用として産業連関分析やMarkov連鎖を学び、行列を用いた数理モデリングの基礎を修得する。	○	◎		○	○	
22	全学部共通基盤科目群	インターネット配信	2	選択					急速に普及したインターネット動画配信を対象に、その特性と可能性を理解し、効果的な活用法を探究することを目的とする。専用機材や汎用機材を用いたストリーミング配信の企画・構成・運営を初歩から応用まで学び、映像メディアの新たな表現形態を実際に体験的に理解する。さらに、実際の生配信制作を通じて、情報発信の実践力を獲得し、現代のメディア環境に対応できる知識と応用力を養う。		○			○	
23	全学部共通基盤科目群	観光の現在と未来	2	必修					本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深める。					○	○
24	全学部共通基盤科目群	ヘルスツーリズム	2	選択					少子高齢化社会を迎え、健康づくりが「個人生活の質」から「地域・環境の質」まで求められており、新しい健康観・ウェルネスが提唱されている。本講義では、健康増進や環境及び地域文化とのかかわりで心身を癒す広義のヘルスツーリズムの概念を理解し、生涯に渡って、ウェルネスの考え方、ウェルネスのライフスタイルを維持するため基礎知識を身につけることを目的とする。					○	○
25	全学部共通基盤科目群	社会心理学	2	選択					本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。						○
26	全学部共通基盤科目群	生活と文化	2	選択					私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を訪れている。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢化社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。						○
27	全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	2	選択					生涯スポーツとは、スポーツを通じて生活の質の向上を目指し、個人のライフスタイルに応じた運動やスポーツを生涯にわたって楽しむことである。本授業では、スポーツについて人文科学（歴史）、社会科学（国の政策）、自然科学（人体の構造や機能）などの観点から理解を深めるとともに、運動やスポーツを実践するための基礎的なトレーニング方法を学ぶ。					○	◎
28	全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	2	選択					現在、我々が慣れ親しんでいる多くのスポーツの原型は、19世紀末イギリスを中心にヨーロッパから世界中に伝えられたものであるが、社会環境の変化にともない、スポーツが社会に果たす役割や意味は変化してきている。本授業では、スポーツやスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。						○
29	全学部共通基盤科目群	ボランティア論	2	選択					この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめしていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。					○	○
30	全学部共通基盤科目群	コミュニケーションの基礎	2	選択					現代社会において「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するのではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを具体的事例とともに検討します。こうした学びを通じて、現代のコミュニケーションを理解するための基礎的な視点を獲得することを目指します。					○	○
31	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトA	2	選択		○	○		本授業は、障がい者の『生の芸術』と呼ばれる"アール・ブリュット"芸術展の開催を通して、障がい者と地域が「つながる」機会に乏しいという地域課題の解決に向けて取り組むプロジェクトである。自身の思いを表現することが難しい障がい者の「生」と、学生・地域が「つながる」ことで地域共生社会の実現に向けた取り組みを行う。					○	○
32	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトB	2	選択		○	○		本演習は、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。参加学生は、ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組むことを目指す。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働の能力を養うことを目的とする。					○	○
33	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトC	2	選択					デジタル化の進展に伴う高齢者のデジタルデバイドの課題に対し、スマートフォンの活用支援を通じて解決を図る。学生がデジタルコーチとして講習会の企画・実施・評価を行い、利用方法の説明技術および支援力を修得するとともに、高齢者の生活満足度やQOL向上への効果を検証し、地域における実践力と協働の態度を養う。					○	○
34	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトD	2	選択		○	○		この科目では、東金市のオリーブ産地化を様々な形で応援するプロジェクトを実施します。オリーブの雑学・歴史・栽培から商品化、ヘルスケアなどの効用、地域とのかかわりなどを学び、イベントの企画・運営やオリーブ関連商品の開発を通じ、オリーブ産地化に携わる地域の皆さんと交流し、まちの活性化、地域住民の健康支援などについて考え、解決に向けた取り組みを企画・実践します。					○	○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
35	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトE	2	選択		○	○		本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。				○	○
36	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトF	2	選択		○	○		「競技内容」「競技レベル」「年齢」によるフィジカルレベルや要求能力の違いを体験するとともに、それに応じたエクササイズ指導方法の立案を学び、実践する。若年者～高齢者まで、全年齢を対象に、「健康増進」「障害予防」の重要性を学ぶとともに、ライフステージの変化に応じて必要な機能の違いを学び、また生活を豊かにするために必要となる「運動」について理解する。そして、それらを企画・立案する経験を得る。				○	○
37	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトG	2	選択					子どもを対象とした防災教育の実践を通じて、地域におけるコミュニティ形成と課題解決を図る。学生が学童保育や放課後等デイサービス等の場で、かるた等を用いた防災教育活動の企画・実施・評価を行い、多様な背景をもつ地域住民や関係機関と協働する中で、創造性およびコミュニケーション能力を高め、地域共生のまちづくりに資する実践力と協働的態度を養う。				○	○
38	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトH	2	選択					域学共創プロジェクトは、学生が主体となり地域の方々や協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。当授業は、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することで、祭りや地域、人々との関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。				○	○
39	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトI	2	選択		○	○		本講義は、東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる地域課題について、地域の様々な団体と連携し、実践的に取り組むことを通じて、課題発見力、課題解決力を養うものである。2025年度は地域の農業の人手不足によるフードロス、耕作放棄による里山環境の消失や生物の絶滅、町おこしなどのテーマに取り組んでいる。	○	○		◎	○
40	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトJ	2	選択										
41	全学部共通基盤科目群	史学概論	2	選択					人間社会の様々な事象（事件、制度、文化等）が現在あるような形と内容になった因果関係を探るのが歴史学である。まず、歴史を研究するとはどのような行為かを考える。事実と史実と真実の違いは何か。次に、日本以外の地域の歴史のなかからテーマを選び、人類の歩みにおける因果律について考察したい。政治史を主としながらも、その裏にあるテクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。					○
42	全学部共通基盤科目群	日本史を学ぶ	2	選択					本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといたる歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなる予定であるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生が、日本の歴史を学ぶ意欲をもち、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。					○
43	全学部共通基盤科目群	アジア史概論	2	選択					地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域を理解し、その上で東アジア地域について検討する。古代と中世については、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代は、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていききたい。現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。					○
44	全学部共通基盤科目群	現代史入門	2	選択					近現代史を体系的に理解することで現代社会の背景を読み解く力を養うことを目的とする。前近代と近代の違いや二大戦以前からの世界情勢を追い、政治・戦争に加え経済・社会の流れを意識して学ぶことで、国際情勢の変化と日本の位置づけを考察する視座を得る。講義を中心に進め、映像資料を交えつつ歴史的背景や基礎知識を解説する。各回の小課題を通して因果関係を整理し、歴史的事象を自ら説明できる力を培う。					○
45	全学部共通基盤科目群	房総の文化と歴史	2	選択					本講義は、千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。					○
46	全学部共通基盤科目群	映像メディア史	2	選択					人類は映像というメディアをどのように利用、活用してきたのか。その歴史を遡ると同時にメディアとしての映像はいかに発展してきたかを分析、考察する。					○
47	全学部共通基盤科目群	音楽史	2	選択					本授業では、世界の音楽産業に最も大きな影響を与えてきたポピュラー音楽を対象とし、その歴史的展開を概説するとともに、ジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴や成立した時代について学ぶことを目標とします。					○
48	全学部共通基盤科目群	政治学入門	2	選択					戦後日本が一つのモデルとしたアメリカの民主政治がどのように機能するのかを学ぶことによって、政治学を学ぶのに必要な基礎知識を習得することを目指す。具体的には、第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性を理解する。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら把握する。第三に、現代アメリカ政治の分極化の背景を知り、今日の民主主義諸国における政治の混迷の原因を考える。		○			○
49	全学部共通基盤科目群	経済学入門	2	選択					本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基本的な概念や思考方法を習得することを目的とする。経済学を学ぶと経済学的な視点から論理的な意思決定ができるようになる。講義では日常の出来事や時事ニュースも題材にして、経済の仕組みや専門用語をわかりやすく解説する。また、経営学との違いにも触れつつ、ビジネスの現場でも応用可能な経済学的思考法を紹介する。	◎	○			○
50	全学部共通基盤科目群	社会と経営	2	選択					企業経営とは、社会のニーズに対応する商品やサービスを開発し、それらの提供により価値提供を図りながら継続的、かつ発展的に活動してゆくことである。本講義は「企業価値」の側面からアプローチする新しいスタイルの経営学入門講座である。経営学の基本的知識の習得を到達目標とし、同時に社会と企業経営の関わりについて考察することを本講義のテーマとする。	◎	○			○
51	全学部共通基盤科目群	社会と会計	2	選択					本授業では会計学の基本的なテキストを用いた上で、以下の3点を目的に開講する。1）財務諸表に企業の在り方や活動がどのように記載されるのかを大まかに理解する。2）社会人にとって必携の書である日本経済新聞の企業欄や証券欄を読みこなせる会計の語彙力を身に付ける。3）より高度な会計学を学ぶ動機付けをする。授業はオンデマンド形式で行い毎回のテストと課題提出を求める。また期末テストとしてはレポートの提出を課す。	◎	○			○
52	全学部共通基盤科目群	マーケティング論	2	選択					成熟した消費社会において、企業が顧客ニーズを捉え、価値を創造・提供し、競争優位を築くためのマーケティングの基礎を学びます。本授業では、マーケティング・ミックス（4P）、STP分析、製品ライフサイクルといった基礎知識はもとより、消費者行動の分析、製品、ブランド、価格、プロモーション、流通といったマーケティング戦略の実践面も具体的な事例(ケース)も紹介しながら習得し、問題解決能力を養います。	◎	○			○
53	全学部共通基盤科目群	広告戦略論	2	選択					広告業界の仕組みや役割を理解し、広告が完成するまでの流れを学ぶ。マスメディアを中心に、最新のデジタルメディアの動向や広告会社のコンテンツ戦略を考察する。広告代理店や制作会社など関連業界に関心を持ち、将来進路として志す学生に有益な知識と実践的視点を提供する。	○				○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
54	全学部共通基盤科目群	社会学	2	選択					「社会とは何か」という根本的な問いを出発点に、個人の総和を超えて存在する社会の特質を理解する視点を養うことを目的とする。日本人やアメリカ人といった集団に関する言説の背景を手がかりに、なぜそのような「社会像」が語られるのかを考察する。授業はテーマごとに連続講義を行い、必要な情報や知識を提供すると同時に、受講者自身が思考を深める機会を設ける。理解度確認やレポートを通じて、多様な視点から社会を捉える力を培う。	○				○
55	全学部共通基盤科目群	社会調査	2	選択					この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。	○			○	○
56	全学部共通基盤科目群	法学概論	2	選択					市民社会の基盤を支えるものとして、法律制度が重要な役割を担う。本講義は、受講者諸君がリーガルマインドを養成するため、法律に関する基礎知識を教養として身に付けることは、講座の目標である。本講座は、憲法・民法・商法の学者が共同編著したテキストを活用し、法とは何かを初めに、法と裁判、日本の裁判制度と法解釈、さらにいくつか重要な実定法を紹介すると共に、法令制定のプロセスも紹介していく予定。	○	○			○
57	全学部共通基盤科目群	日本国憲法	2	選択					日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論究する。	◎				◎
58	全学部共通基盤科目群	著作権	2	選択					著作権や知的財産権の重要性にも触れ、自身の創造的な活動を社会で展開するための基盤を築く。	○				○
59	全学部共通基盤科目群	社会福祉学A	2	選択					21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとっても不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。					○
60	全学部共通基盤科目群	社会福祉学B	2	選択					本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。					○
61	全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論A	2	必修				○	ICTの進展に伴い、組織における情報化が深化してきている今日の社会においては、われわれ一人一人がICT利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。本授業では、情報学の学びにおける基礎を学修する。産官学が連携して推す国家試験である「ITパスポート試験」で出題される大分類目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。	◎	○		○	○
62	全学部共通基盤科目群	世界遺産のいま	2	選択					「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義は、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGS」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合い、その深い理念を理解することを目的とする。					○
63	全学部共通基盤科目群	美学・芸術学	2	選択					「美」の理念（美しさ、立派さをうちに含む理念）という人間性の共通基盤に対する理解を深め、個々の人間の内に生み出す創造性を探ることをねらいとする。具体的には、美術・芸術作品の身近な経験をてがかりにその社会的・文化的・歴史的な存立条件を考察し、想像力を活かして過去の人々の同様の存立条件へと考察をひろげる。この作業を通して、美術・芸術一般の成立条件、さらには、「『美』とはなにか」という問いへと迫る。					○
64	全学部共通基盤科目群	表象文化研究	2	選択					映画、アニメ、舞台、音楽、マンガなど、3分野にまたがる多様なメディア芸術作品を多角的に分析し、その表現意図、構成、社会的背景を深く考察する。具体的には、物語構造、視覚表現、音響デザイン、そして作品が生まれた時代背景や社会情勢がどのように影響しているかを深く掘り下げ、批評的思考力を養う。単なる作品鑑賞に留まらない深い考察を通じて、自身の制作活動に活かす。					○
65	全学部共通基盤科目群	世界の文学	2	選択					「世界の文学」といえば、世界の料理を食べ歩く番組のように案内人の趣味を披露する科目かと思われるかもしれない。しかし文学を味わい比べるためには、一個人の趣味を超えて比較の観点と基準を他者と共有しうるかを構想し、その構想を他者とともに吟味しなければならない。それゆえ「世界の文学」は、近代の小説、詩、戯曲のようなジャンルを藪呑みにせず文学とは何かを問い、文学の世界性をつかもうとする試みである。					○
66	全学部共通基盤科目群	演劇研究	2	選択					演劇・ミュージカル・舞踊といった舞台芸術を対象に、その歴史・構造・表現方法を多角的に学び、舞台ならではの表現の力と社会的役割を理解することを目的とする。日本の伝統芸能から現代演劇、海外の主要作品やクリエイターまで幅広く取り上げ、作品や上演の背景を考察する。また、舞台表現に欠かせない俳優・演出家・ダンサーなど創り手の関わりを理解し、舞台芸術の魅力と可能性を検討する。映像資料や音楽資料も活用しつつ、受講者自身の体験や議論を通じて、舞台芸術を学ぶ基礎的視座を養う。					○
67	全学部共通基盤科目群	古典芸能研究	2	選択					伝統芸能の一つである落語を題材に、その歴史と変容を学び、口承文化の継承や現代的意義を考察する。名作や新作落語の内容を分析し、日本人の価値観や社会観の理解を深めるとともに、実際の演じ方を体験することで、芸能の構造や表現を実感的に学ぶ。					○
68	全学部共通基盤科目群	文学を読む	2	選択					本授業は、日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。					○
69	全学部共通基盤科目群	教育学	2	選択					教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。					○
70	全学部共通基盤科目群	心理学	2	選択					心理学は、人の意識や精神、それらの表れとしての行動を研究し、人間の心の理を科学的に解明しようとする学問である。本講では、科学として人の「こころ」の様々な側面を探索していくことをテーマに、人の意識や精神活動及び心のケアとサポートについての理解を深めることを目標とする。心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を通してながら、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。					○
71	全学部共通基盤科目群	基礎の数学	2	選択					この授業では、採用テストSPI3の非言語分野、公務員試験の数的処理、情報科学に関連する数学の問題など、社会で必要とされる基礎的な数的問題を扱う。出題された内容をすべて解けるようになることが到達目標である。授業はオンデマンド形式の録画を視聴しながら取り組む演習方式である。毎回、講師がその回のトピックと例題を説明した後、受講者は出題された演習問題を解き、講師がその解説を行う。毎回小テストを課す。					○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
72	全学部共通基盤科目群	ジェンダー論	2	選択					女性解放運動（フェミニズム）の歴史を学ぶことを通じて、ジェンダー研究がどのように発展してきたのかを理解する。そして現代社会において、ジェンダーに係る諸問題が極めて多様であることを様々な具体例を通じて学び、諸問題を解決していくための方策を各自が考案する。授業はオンデマンド形式で実施し、関連する資料を適宜示しつつ進めていく。					○
73	全学部共通基盤科目群	根拠への問い-哲学へのとびら	2	選択					みずから問いを引き上げ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一步でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。					○
74	全学部共通基盤科目群	異文化適応論	2	選択		○	○		本授業は、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の視点から異なる文化環境での適応を考察する。まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験に伴う不適応の実態と要因を解説する。次に、カルチャーショックの諸相やU字曲線などの適応モデルを紹介し、自身を知ることの重要性も習得させる。最後に、適応の条件や成長のプロセスとしての意義を理解し、異文化適応力を養うことを目標とする。	◎		◎		○
75	全学部共通基盤科目群	宗教学概論	2	選択					日本人は無宗教とされるが、寺院の数だけでもコンビニの総数を上回る。今日、多文化共生が叫ばれるが、文化と宗教の関係は密接である。本講義では、一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問うていく。また、「宗教」からさまざまな現代問題にも迫っていく。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義する。					○
76	全学部共通基盤科目群	倫理学概論	2	選択					道徳的指令集としての「倫理学」が、「善」や「正義」は個人や文化によって異なり明確な答えがないなどの理由によって否定されてきている現状を理解した上で、我々が日々倫理的に中立的であり得ているのかを再吟味する。その上で、哲学・倫理学の歴史的な英知を基に、21世紀における我々の社会・国家・世界における現実への顕在的・潜在的関与を自分自身で再構築し、それを日々の生活で実践していくことを追究する。					○
77	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学A	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得する。主に球技等のチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。さらに、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法で生涯にわたってスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。					○
78	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学B	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれるが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。					○
79	全学部共通基盤科目群	しゃべりのスキルUp I	2	選択					社会生活やキャリア形成に不可欠な会話力を多角的に養う。発声・滑舌、文章構成力、語彙力、雑談力、表現力などを段階的に学び、プレゼンや面接で説得力ある言葉を使える力を身につける。双方向型とオンデマンド型を組み合わせ、インプットとアウトプットを実践的に強化し、即戦力となる表現スキルを習得する。					○
80	全学部共通基盤科目群	Drug Action Science	2	選択					Drug Action Scienceはくすりの効果とその働き方について、花粉症や胃痛に効くくすりなど日常使用するものを取り上げて学びます。しかし、くすりの使い方を誤ると私たち体に悪影響をもたらすことも学び、くすりを正しく使用する理由を理解しましょう。漢方薬という日本の伝統医学に基づくくすりがあるけど、どのような時に服用するのかなどのテーマからくすりに関するリテラシーを高めていきます。					○
81	全学部共通基盤科目群	症状に合わせた健康セルフケア	2	選択					日本の医療制度の基礎や調剤薬局、ドラッグストア、クリニック、病院などの医療施設について理解し、健康診断における検査値異常時の対応や身体に異変を感じた時のセルフメディケーションについて学ぶ。					○
82	全学部共通基盤科目群	感染症とくすり	2	選択					近年、新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症に対して改めて興味を持つ方が増えていますが、世の中には様々な情報が飛び交っていて、どれが正しい情報か分かりにくいのが現状です。本講義では、代表的な感染症を例に挙げ、病気になる仕組みについて学び、また、感染症にかからないようにするには、かかってしまったときにはどうすれば良いのかを理解することで、世の中にある感染症に関する様々な情報を吟味して身を守るための合理的な行動がとれるよう学習をすすめます。					○
83	全学部共通基盤科目群	ハーブ・サプリメント・漢方薬	2	選択					日本では、生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧など）などの慢性疾患の患者は年々増加している。生活習慣病を発症すると多くの場合、一生にわたり治療を継続することになり、QOL（quality of life）が低下すると考えられている。そのため、健康維持・増進や疾病の発症予防に関わる知識を習得し、その知識をもとに自らの健康を管理することが重要である。					○
84	外国語科目群	Fundamentals of English I	2	選択		○			高校英語で学んだ知識を基盤にし、それを実際のコミュニケーション能力として発揮することを目指す。積極的な参加が求められ、ペアワークやグループワークを通して学習する。各モジュールの初めに目標を設定し、終了時に振り返りを行い、自律的な学習力を養う。テキストに関連するオンライン課題による予習・復習を定期的に行い、ライティング課題やTOEIC課題を行い、最終レポートを提出する。				◎	○
85	外国語科目群	Fundamentals of English II	2	選択		○			Fundamentals of English Iで学んだ基礎を踏まえ、英語を使う自信と使う力をさらに広げることを目指す。授業では協働的な活動を多く取り入れ、ディスカッションや課題解決を通して表現力を磨く。オンライン課題による予習・復習を継続し、反復を通じて定着を図る。学期中には複数のライティング課題やTOEIC関連の練習を行い、最終的にレポートをまとめて提出する。				◎	○
86	外国語科目群	Oral Fluency I	2	選択		○			Oral Fluency IIは、学生のスピーキング力、とくに会話やディスカッションの能力を高めることを目指す科目とする。英語で会話や議論を行う方法を学び、流暢さを養いながら幅広い会話ストラテジーを身につけることを目的とする。さらに、日常的な話題に関する新しい語彙や表現を習得し、英語での討論力を強化する。				◎	○
87	外国語科目群	Oral Fluency II	2	選択		○			Oral Fluency IIは、Oral Fluency Iで身につけた力をさらに広げるスピーキング・会話・ディスカッションの科目とする。ペアや少数グループでのやり取りを通して積極的に発話の機会を持ち、語彙や会話ストラテジーを学び、リスニング練習も行う。継続的な練習によって表現力と理解力を伸ばし、履修後には自分の英語力にもっと自信を持てるようになる。				◎	○
88	外国語科目群	TOEIC Preparation A	2	選択		○			この科目は、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験時に役立つ様々な戦略を指導するものである。よく出される問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的の実施し、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに活用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。				◎	○
89	外国語科目群	TOEIC Preparation B	2	選択		○			この科目では、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験をする時に役立つ様々な対策を指導する。頻出する問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的の実施して、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに活用可能なリスニングの方法を身につけて網羅うことを目指している。				◎	○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
90	外国語科目群	TOEIC Preparation C	2	選択		○			この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に活用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のミニテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。			◎		○
91	外国語科目群	TOEIC Preparation D	2	選択		○			この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に活用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のミニテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。			◎		○
92	外国語科目群	English for Specific Purposes A	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.			◎		○
93	外国語科目群	English for Specific Purposes B	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.			◎		○
94	外国語科目群	English for Advanced Studies A	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.			◎		○
95	外国語科目群	English for Advanced Studies B	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.			◎		○
96	外国語科目群	Basic Writing Skills I	2	選択		○			Basic Writing Skills Iでは、文構造、パラグラフ展開、ライティング・プロセスといった基礎的スキルを学ぶ。授業ではテーマに沿った語彙や基本文法を学び、文のつながりや一貫性を意識した練習を行い、短い段落ライティングやインクラス課題に取り組む。学期中に作成した課題はポートフォリオにまとめ、学期末に提出する。			◎		○
97	外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択		○			基礎で学んだ力を踏まえ、中級レベルの学生がスピーキング・会話・ディスカッション能力をさらに高めることを目的とする。SDGsに関連するテーマを扱い、関連語彙や会話ストラテジーを学びながら英語での意見交換を行う。ペアや少人数グループでのやり取りを通して継続的に発話を練習し、流暢さ、表現力と理解力を伸ばす。履修後にはスピーキング、ディスカッション、リスニングに一層の自信を持てるようになる。			◎		○
98	外国語科目群	Intermediate Reading Skills I	2	選択		○			この科目では、雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探検し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加する。それにより、英語の語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する。その方法を示すことにより、読解力を向上させる。			◎		○
99	外国語科目群	中国語I	2	選択		○			初学者を対象とし、中国語の基本的な発音、語彙、文法項目、会話、練習問題等に取り組む。中国語の発音（ピンイン）と表記を重点的に学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力を養う。毎回の授業で繰り返し発音練習を行い、基礎文法に関する理解を深め、会話練習を重ねることで、正確な発音と基礎的な表現力を着実に身につける。			◎		○
100	外国語科目群	中国語II	2	選択		○			中国語Iを履修した学生を対象とし、中国語の発音、語彙、文法項目、会話、練習問題を通じて学習を深める。基礎的な中国語の文法を学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力をより強固にすることを旨とする。さらに日常生活において頻出する会話表現を積極的に取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を養成する。また、中国語検定試験対策の指導を行う。			◎		○
101	外国語科目群	韓国語I	2	選択		○			ハンガルの仕組みや基礎的な文法事項を理解し、自己紹介や挨拶表現、趣味や居場所など身近な話題について、簡単な会話や短い作文を行う力を養う。授業では繰り返しの練習を通して発音や表現に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を培うことを目標とする。			◎		○
102	外国語科目群	韓国語II	2	選択		○			「韓国語I」を履修した学生を対象とし、そこで学んだ内容を確実に復習した上で、さらに多様な表現や文法事項を習得する。授業では実際の会話練習や文章作成を通じて運用力を高め、より幅広い場面において適切にコミュニケーションを行える基礎を築くことを目標とする。			◎		○
103	外国語科目群	スペイン語I	2	選択		○			This is an introduction to Spanish language fundamentals. Students learn basic vocabulary, present tense verbs, and essential grammar structures. Focus on simple conversations, greetings, family, numbers, and daily activities. No prior Spanish knowledge required. Prepares foundation for continued study.			◎		○
104	外国語科目群	スペイン語II	2	選択		○			This builds upon Spanish I foundations. Students expand vocabulary and learn irregular verb conjugations in the present tense. Emphasis on pronunciation and basic listening comprehension. Increased emphasis on speaking and listening skills through interactive exercises and basic conversations about familiar topics.			◎		○
105	外国語科目群	ドイツ語I	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（文タイプと動詞の位置・否定文・平叙文・疑問文・人称代名詞・動詞の現在人称変化・sein, haben・名詞の性・名詞格変化・人称代名詞格変化）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。			◎		○
106	外国語科目群	ドイツ語II	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（動詞の規則変化・名詞の格変化・代名詞の格変化の復習に続き、不規則動詞の現在人称変化・名詞の複数形・否定冠詞・名詞の2格、3格）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。			◎		○
107	外国語科目群	フランス語I	2	選択		○			この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。			◎		○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
108	外国語科目群	フランス語II	2	選択		○			本科目はフランス語Iを修得した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。引き続き、基本的な語彙と文法を習得することを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を引き続き養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。			◎		○
109	外国語科目群	ハンガリー語I	2	選択		○			初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。			◎		○
110	外国語科目群	ハンガリー語II	2	選択		○			「ハンガリー語I」に続きハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。			◎		○
111	外国語科目群	ポーランド語I	2	選択		○			本科目は2時限連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力も紹介する。			◎		○
112	外国語科目群	ポーランド語II	2	選択		○			本科目は2時限連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。			◎		○
113	外国語科目群	チェコ語I	2	選択		○			チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。			◎		○
114	外国語科目群	チェコ語II	2	選択		○			正しい発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。			◎		○
115	外国語科目群	日本語I	2	選択		○			この授業は、日本文化や社会への理解を深めながら、日本語による実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。日常生活やニュースなどを題材に、生の日本語を読み、聞き、話し、書く活動を通じて、各回のCan-do目標を達成する。すべてのCan-doを達成することで、留学生生活をより充実させる力を身につける。			◎		○
116	外国語科目群	日本語II	2	選択		○			この授業は「日本語I」に続き、日本での留学生活に必要な日本文化や社会への理解をさらに深めながら、日本語の実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。初対面、食文化、音楽、旅行などの社会文化をテーマに、生の日本語を使って4技能を向上させる活動を行い、各回のCan-do目標の達成を目指す。特に話す力（会話・独話）の向上に重点を置き、自分の意思や考えを説明し、その理由を述べる力を育てる。			◎		○
117	外国語科目群	日本語III	2	選択		○			この授業は、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、「日本語II」に続き、学部科目につながる日本語力の向上を目的とする。読む・聞く・書く・話すの4技能を通じて、文法・読解・聴解・語彙・文字を総合的に学び、学んだ知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。特に話す力とディスカッション力の向上に重点を置き、ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、思考力と表現力を高める。			◎		○
118	外国語科目群	統合日本語I	2	選択		○			この授業では、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。			◎		○
119	外国語科目群	統合日本語II	2	選択		○			この授業では、「統合日本語I」に続き、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。			◎		○
120	外国語科目群	統合日本語III	2	選択		○			この授業は、「統合日本語II」に続き、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、内容を通じて4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めることを目的とする。SDGsや日本文化などを題材に、言語知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、批判的に考える力を育てる。探求的な学びを重視し、発表や議論を通じて思考を深め、学びの成果をまとめる。			◎		○
121	外国語科目群	日本語アカデミック・ライティング	2	選択		○			この授業は、アカデミックなライティング力を養うことを目的とする。日本の大学における一般的な日本語のレポートの書き方を学びながら、テーマについて考え、それをレポートにまとめる練習を行う。まず自分の関心に合わせてテーマを選び、必要な調査を行い、調べたことをもとに考察し、1つのレポートを完成させる。大学のレポートに求められる論理の立て方、資料の集め方、引用の方法も学ぶ。			◎		○
122	外国語科目群	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択		○			この授業は、大学で求められるアカデミックなスピーキング力を養うことを目的とする。自分の考えをスライドを用いて口頭で発表する力を身につけるため、発表テーマの設定、考察や結論の構成、スライドと原稿の作成、発表時の話し方までを段階的に学ぶ。授業では、発表準備と練習を重ねながら、論理的に伝える力と表現力を高める。大学生として必要な発信力を育成し、主体的に意見を述べる力を養う。			◎		○
123	外国語科目群	社会と文化の日本語A	2	選択		○			この授業は、社会や文化に関する題材を通じて日本語の運用力を高めることを目的とする。新聞や雑誌の記事を精読・速読し、語彙や文法を習得しながら社会的テーマを理解する。映像作品や漫画を用いた議論や発表で表現力を養い、科学技術に関する情報を扱うことで論理的に説明する力を育成する。読解・議論・論文作成を柱とし、4技能を総合的に伸ばすことを目標とする。			◎		○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
124	外国語科目群	社会と文化の日本語B	2	選択		○			この授業は、日本の社会や文化に関する映像や動画を題材に、日本語の運用能力を高めることを目的とする。授業では、映像作品から表現や語彙を学び、ペアワークやグループワークを通じて議論や発表を行う。批判的思考力や問題解決能力を鍛え、他者の意見を理解しながら自分の考えを伝える力も養う。これらの活動を通じて、社会や文化を理解しつつ積極的にコミュニケーションを取れる日本語力を身につけることを目標とする。			◎		○
125	外国語科目群	ビジネス日本語I	2	選択		○			この授業は、日本の企業文化への理解と、ビジネス場面で求められる日本語コミュニケーション力の向上を目的とする。敬意表現や依頼・謝罪・断りなどの機能表現、会話文、前置き表現、語彙、文書の読み書きを含む4技能を総合的に学ぶ。ケーススタディやディスカッションを通じて、発話力・表現力を高め、論理的に意見を述べる力を養う。実践的な活動を重視し、積極的な参加が求められる。			◎	○	○
126	外国語科目群	ビジネス日本語II	2	選択		○			この授業は、「ビジネス日本語」で培った基礎力をもとに、グローバル人材として活躍するための知識と技法を実践的に身につける。将来、日本企業や海外の日系企業への就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力、社会人基礎力、異文化調整能力を総合的に修得する。アポイント取得、会議参加、クレーム対応、交渉などの場面を扱い、語彙・敬意表現を学ぶ。協働活動を通じて企業文化の理解と実践力を高める。			◎	○	○
127	外国語科目群	キャリア日本語(就職)	2	選択		○			この授業は、将来日本で働くことを希望する学生を対象とし、社会人として必要な日本語コミュニケーション力と社会人基礎力を養うことを目的とする。会社内の会話文やケーススタディを通じてビジネス場面での対応力を高め、履歴書や面接、企業分析など就職活動に必要な日本語表現を学ぶ。毎回のスピーチやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自分の考えを論理的に伝える力と協働的に学び合う姿勢を育てる。			◎	○	○
128	外国語科目群	キャリア日本語(進学)	2	選択		○			この授業は、大学院進学を希望する学生を対象とし、進学に必要なスキルと論文作成力を体系的に身につけることを目的とする。研究計画書や小論文、学術レポートの書き方を学び、参考文献リストや引用、概要の整理方法も習得する。これまでの知識を個人化し、専門分野について語り、論じる力を育てる。大学院の探し方や資料の取り寄せ方なども扱い、読む・書く・話す・聞くの4技能を通じて、アカデミックな表現力を高める。			◎	○	○
129	外国語科目群	専門日本語(福祉・介護)	2	選択		○			この授業は福祉、とりわけ介護・保育の現場を目指す学生を対象とした科目である。現場の1日の流れを理解し、必要な日本語や専門表現を見につける。介護・保育現場のコミュニケーションを分析し、モデル会話を練習するほか、ペアワークやグループワークで意見を交換し、互いに学びながら実践力を高める。学生は自ら情報を調べ整理し、福祉に関する記事の読解や議論を通して語彙・文法・表現を習得することを目標とする。			◎	○	○
130	外国語科目群	専門日本語(ホテル・観光)	2	選択		○			この授業は、将来接客業に携わりたい学生を対象とし、ホテル・観光業における接客コミュニケーション、マナー、非言語行動を学ぶ。空港や観光名所などの場面を想定し、観光ガイドが使う日本語表現を習得する。学習者は観光情報を自ら調べ、整理し、自分の言葉で簡潔に述べたり議論したりする中で、専門語彙や表現力を身につける。日本のおもてなしを理解し、実践できる力を養うことを目標とする。			◎	○	○
131	外国語科目群	専門日本語(文学・評論)	2	選択		○			この授業は、日本文学や現代文章の読解を通して日本語表現・語彙・文法を体系的に学び、日本人の思考や価値観、文化理解を深めることを目的とする。ペア・グループ活動や発表、レポート作成を重視し、段落要旨や作品テーマの把握、感想文作成を通して、読解力と論理的に意見を述べる力を養成する。毎回の予習復習と発表準備を通じて主体的学習態度を確立し、継続的な言語運用能力の向上を目指す。			◎	○	○
132	外国語科目群	専門日本語(異文化コミュニケーション)	2	選択		○			この授業は、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションについて学び、異文化理解に必要な態度や心構えを養うことを目的とする。異文化コミュニケーションの理論とエクササイズを通じて、自文化と他文化に関する情報を学び、自己の気づきを深める。ディスカッションや活動を通して、開かれた心と積極的な参加姿勢を育てる。文化やコミュニケーションの過程を問い直しながら、日本語の4技能も高める。			◎		○
133	外国語科目群	Fundamentals of Japanese A	4	選択		○			この授業は、日本語を初めて学ぶ学習者を対象とし、日本で生活するための基本的なコミュニケーション力を身につけることを目的とする。自己紹介、買い物、時間、場所、予定などの場面を想定し、語彙・文法・発音・イントネーションを学ぶ。動詞や形容詞、助詞の使い方を理解し、初級文法の運用力を養う。自然な速さの日本語に触れながら、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく習得し、聞き取りと発話の基礎力を高める。			◎		○
134	外国語科目群	Fundamentals of Japanese B	4	選択		○			この授業は、FoJ Aを終えた初級の学習者が、より自然な日本語を使えるようになることを目指す科目である。買い物の計画、体調の説明、進路の相談、旅行先の比較など、日常の具体的な場面を通して、カジュアルな言い回しを学ぶ。カジュアルスピーチを使った自然な会話表現に慣れ、自分の考えや気持ちを相手に伝える力を養う。発表やディスカッションを通じて、口頭と筆記の両面で表現力を高める。			◎		○
135	外国語科目群	Fundamentals of Japanese C	4	選択		○			この授業は、初級後半として、より複雑な文法や語彙を学び、自然な日本語運用力を高めることを目的とする。アルバイト、旅行、忘れ物、相談など学生の日常に近い場面を通じて、カジュアルスピーチの表現に慣れ、自分の考えや経験を適切に伝える力を養う。読解・聴解を通じて情報を整理し、発表や筆記活動を通して発信力を高める。状況に応じた自然な言い回しを身につけ、実践的な会話力を伸ばす。			◎		○
136	外国語科目群	Fundamentals of Japanese D	4	選択		○			この授業では、初級から中級へ進むための基礎力を固めることを目的とする。買い物で店員に丁寧に質問する、学校制度について説明する、事件の内容を要約する、別れの場面で気持ちを伝えるなど、抽象的で複雑なテーマを扱う。敬語・使役・受身・条件・可能などの文法を学び、論理的で丁寧な表現を身につける。読解・聴解の難度も高まり、情報の整理や意見の発表を通じて、実践的な運用力を養う。			◎		○
137	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills A	4	選択		○			この授業では、中級レベルの日本語運用力を高めるために、紹介・あいさつ・留学・ホームステイなどの場面を通じて、自己表現や人間関係の築き方を学ぶ。依頼や許可、丁寧な言い回しなどを含む文法項目を習得し、実際の生活や留学先で役立つ表現力を養う。会話・読み物・聞き取り・作文を通じて、4技能を総合的に伸ばし、日本事情への理解も深める。初級から中級への移行を支える基礎力を固める。			◎		○
138	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills B	4	選択		○			この授業では、大学生活やレストランでの注文、レクリエーション活動、アルバイト探しなど、学習者が実際に経験する場面を通じて、質問・依頼・引用・誘い方・断り方などの表現を学ぶ。敬語や短縮形、複文の運用力を高めながら、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばす。実践的な会話力と読解力を養い、自分の考えを適切に伝える力を育てることで、中級レベルの運用能力をきたえる。			◎		○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
139	外国語科目群	JLPT Preparation	2	選択		○			この授業は、日本語能力試験N2からN4の言語運用力を目指す指定学生・交換留学生向けの科目である。授業では、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を鍛え、履修学生のレベルに応じて指導を行う。試験に必要な知識や技能を習得するだけでなく、生活や学習場面で活用できる日本語運用力を養うことを目的とする。さらに、学んだ内容を応用し、自らの考えや経験を発信する表現力を高める活動を取り入れる。			◎		○
140	外国語科目群	日本語(言語知識)	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。文字・語彙・文法に関する知識を習得し、毎回の小テストを通じて定着を図る。問題解答の方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を身につける。試験対策と実践力の両面から日本語力を高めることを目的とする。			◎		○
141	外国語科目群	日本語(読解・聴解)	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。読解・聴解に関する問題の解答方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を高める。試験対策と実践力の両面から、日本語力を総合的に伸ばすことを目的とする。			◎		○
142	外国語科目群	日本語A	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に口頭産出に重点を置き、話す力の向上を目的とする。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得し、学んだ知識を実際に使える力へとつなげる。発表やディスカッションを通じて、表現力と運用力を高める。			◎		○
143	外国語科目群	日本語B	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に文法に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得する。様々なテーマを通じて、自分の考えを形成し、仲間との対話やふり返りを通して表現力を高める。発表やディスカッションも行い、実践的な運用力を養う。			◎		○
144	外国語科目群	日本語C	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に文字・語彙に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。N1へのステップアップも視野に入れる。学んだ知識を活用し、発表やディスカッションを通じて表現力を高め、意見をレポートにまとめる力を養う。			◎		○
145	外国語科目群	日本語D	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に聴解に重点を置き、自然なスピードの会話やニュースを聞き、話の流れや要旨、登場人物の関係を理解する力を養う。聴解を中心に4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。学んだ知識を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめることで、実践的な運用力を高める。			◎		○
146	外国語科目群	日本語E	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に読解に重点を置き、文章の構造や要点を的確に把握する力を養う。文法・聴解・文字・語彙も含めて総合的に学び、日本語力の底上げを図る。4技能をバランスよく習得し、知識を実際に使える力へとつなげる。学んだ内容を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめる。			◎		○
147	キャリア形成科目群	ビジネスキャリアI	1	必修		○			アドバイザー別に授業を実施する。初年次教育として大学での学びのノウハウやキャリア形成に必要なスキルを全学部共通基礎科目「スタディ・スキルズ」で扱うが、ビジネスキャリアIでは「スタディ・スキルズ」での学びを踏まえて、アクティブラーニングを助長するため、学生の知的好奇心を高められる課題解決型のテーマ設定を行い、グループでのディスカッションやプレゼンテーション等を行う予定である。			○	◎	
148	キャリア形成科目群	ビジネスキャリアIIA	1	必修		○			3年次からの専門ゼミナル導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に学んでいく。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナルにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。	○			◎	
149	キャリア形成科目群	ビジネスキャリアIIB	1	必修		○			3年次からの専門ゼミナル導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に指導する。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナルにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。	○			◎	
150	キャリア形成科目群	ビジネスキャリア実践A	1	選択		○			近年、就職活動は前倒しの傾向が強まっていることやインターンシップを活用した学生が内定を受けるケースが多くなっている。このような現状を踏まえ、より早期に職業選択のための知識を学び、積極的に情報収集、行動していく観点から、自己分析の行い方、履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶとともに、面接、インターンシップ、就職情報サイトの活用方法、適性検査についての情報や知識を修得していく。				◎	
151	キャリア形成科目群	ビジネスキャリア実践B	1	選択		○			この科目では、一般企業における業界研究の方法やビジネスマナーを学ぶとともに、就職活動の実践例を通して就職活動の具体的な行い方を理解しながら、個人の進路・職業選択に応じた能力を育み、キャリア形成を図っていく。就職活動に向けて自己理解やそれを文章にする力も養う。加えて、より早期に職業選択のための知識を学び、積極的に情報収集、行動していく観点から学ぶ。				◎	
152	キャリア形成科目群	インターンシップ	2	選択		○	○		本授業では国内における民間又は公的組織においてインターンシップ(就業体験)を行う。前半にはインターンシップ参加に向けた事前学習を行い、実習後には実習内容や自ら学んだことをプレゼンテーションする。企業などでの就業体験を通じて、『仕事をする意味』に気づき理解し、就職活動に向けて主体的に取り組めるきっかけとすることを目標とする。					◎
153	キャリア形成科目群	海外ビジネス研修I	2	選択		○			米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。これらの本研修参加によりグローバル経営や研修先の文化や経済、教育制度についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスのありようについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○	
154	キャリア形成科目群	海外ビジネス研修II	2	選択		○			米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。これらの本研修参加によりグローバル経営や研修先の文化や経済、教育制度についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスのありようについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○	
155	キャリア形成科目群	海外ビジネス研修III	2	選択		○			米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。これらの本研修参加によりグローバル経営や研修先の文化や経済、教育制度についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスのありようについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○	

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。

DP2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。

DP3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。

DP4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。

DP5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
156	専門基礎科目群	経営学総論	2	必修	○				経営学は、基本的には社会の経済活動の担い手たる企業を研究対象として、学際的かつ広範な分野を取り扱っている。企業は「ヒト、モノ、カネ、情報」の4つの資源をうまく活用しながら、モノやサービスに付加価値を付け、それを社会に提供することで利益を獲得し、また経済活動を継続している。その経営学の特徴を理解しながら、自己の考察力、洞察力を深めていってもらう。	◎	○			○
157	専門基礎科目群	経営情報基礎論B	2	必修	○				情報通信技術の基本知識の中から、経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識である、情報システム戦略、業務プロセス、ソリューションビジネス、システム利用促進・評価、システム企画、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査について取り上げ、理解を深めていく。	◎	○			
158	専門基礎科目群	マーケティングリサーチ	2	選択	○				本講義では、マーケティングリサーチを体系的に理解する。近年ではさまざまな種類のデータが取得可能となっていること、さらには多くのデータ分析手法も開発されてきていることから、マーケティングリサーチ、それに基づくマーケティング活動/戦略も変化を遂げている。これらを実例を交えて紹介することで深い理解と実践力を身に付ける。	◎	○			
159	専門基礎科目群	デジタルマーケティング	2	選択					デジタル情報を利用した新しいマーケティングの方法が急速に利用され始めている。マスメディアを中心とする従来のアナログ広告に代わって、インターネットのバナーや検索エンジン、携帯電話を中心とした新しいデジタル広告技術の利用が始まっている。本講義では、インターネットを中心とした新しいマーケティングの分野(デジタルマーケティング)の現状を把握すると共に影響力・可能性の分析を行う。	◎	○			
160	専門基礎科目群	ロジスティクス概論	2	選択	○				ロジスティクスの概念とそれに関わる用語の理解を深め、企業ロジスティクスについての事例を通して、実社会においてロジスティクスがどのように機能しているかを理解することを目的とする。当該概念が生まれた背景、その必要性、そして実社会でどのように機能としているか、ロジスティクスの機能的側面を踏まえ、政策的面から見たロジスティクス、産業としてのロジスティクスを事例を交えながら講義する。	◎	○			
161	専門基礎科目群	流通論	2	選択					経済全体の中での流通の役割や流通機構への理解を深める。流通業の基本機能は産地や製造業と消費者を媒介することだが、単にモノを右から左へと流すだけでなく付加価値を加えることが重要になっている。最近の製造小売業が躍進や小売業者のPB製品開発、コンビニチェーンにおける投機的生産流通から延期的生産流通への転換などの具体例を説明しながら、いま日本の流通業がどこに向かっているかを明らかにする。	◎	○			○
162	専門基礎科目群	初級簿記	2	選択	○				複式簿記の意義、歴史、しくみを理解した上で、簿記一巡の流れについて修得する。具体的には、簿記上の取引、簿記の5要素と財務諸表、勘定の記入法則、試算表の原理、仕訳と転記について学ぶ。これらの理解を前提に、企業の経営活動に必須の取引に関する会計処理を個別論点として取り上げる。また決算整理の基本事項として、売上原価の算定、減価償却、貸倒引当金の設定、費用収益の見越し・繰り延べについて学ぶ。	◎	○			○
163	専門基礎科目群	中級簿記	2	選択	○				複式簿記の基本原則（特に仕訳と転記）を理解していることを前提に、株式会社会計を中心に修得する。株式会社の意義、歴史、制度を理解した上で、株式会社に関する会計処理を学ぶ。また現在の会計実務はコンピュータによる処理が一般的であるが、その処理体系において補助簿の重要性が増している。このことを勘案し、補助記入帳と補助元帳の役割と記帳方法についても学ぶ。	◎	○			○
164	専門基礎科目群	会計学	2	選択	○				会計は経営にとって必要不可欠な要素である。会計はビジネスの共通言語ともいわれ、企業やその利害関係者にとって重要なものとなっている。会計は個人・会社に関係なく、どのような経営にも必要とされるものである。また企業に関連して様々な意思決定を行う際にも大きな武器にもなり得るものである。このような会計に関する歴史、理論、方法、制度について網羅的・包括的に学んでいく。	◎	○			○
165	専門基礎科目群	経済原論A	2	選択	○				本講義では『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。現代社会を理解しようとするとき、やはりその背景にある大きな歴史的流れをつかんでおくことが必要である。本講義を通じて現在の社会が置かれている位置づけと方向性について一定の理解を得られるよう、多様な経済側面から幅広い内容で講義を行っている。	◎				
166	専門基礎科目群	経済原論B	2	選択					経済原論Aで学んだ基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。本講義では経済原論A同様に『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。テーマとしては後半の近現代社会や経済のありようなどの諸問題が中心となる。	◎	○			○
167	専門基礎科目群	消費生活と行政	2	選択	○				消費者政策・消費者行政・消費者教育論を取り上げ、望ましい消費者行動について考える。消費者庁『消費者白書』から課題を具体的に取り上げる。「法・契約と消費者」「消費者問題と消費者保護」「消費者行政・消費者政策」「金融と消費者」「環境問題と消費者」「消費者教育と消費者市民社会」についての専門的な知識を理解し活用できるようにする。リテールマーケティング（販売士）検定の内容ともリンクさせる。	◎	○			○
168	専門基礎科目群	情報化戦略とマネジメントA	2	選択					テーマは、経営情報関連の情報通信技術の基礎である。到達目標は、ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、企業と法務、経営戦略に関する問題の70%を確実に正解できる能力を身につけることである。情報通信技術の進展に伴い、情報通信技術に関する基本的な知識修得が必須であることから、情報通信技術の基本知識の中から経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識を取り上げ理解を深めていく。	◎	○			
169	専門基礎科目群	情報学演習A	2	選択					本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身に付けることを目標とする。「ITパスポート試験」の合格のため、テクノロジー系の内容について実践レベルの理解を深める。	◎	○			
170	専門基礎科目群	情報学演習B	2	選択					本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身に付けることを目標とする。ITパスポート試験の合格のため、ストラテジ系およびマネジメント系の内容について理解を深める。	◎	○			
171	専門基礎科目群	情報ネットワーク論	2	選択	○				講義では、情報ネットワークについての基礎的知識を身に付ける。情報通信の歴史やネットワークの仕組み、インターネットで利用される通信規約・使用機器とその性質などを理解する。情報通信技術は日々進歩するが、根本は変化することも陳腐化することもない。第4次産業革命の中核技術であるIoTやAIとネットワークの関係についても触れる。	◎	○			
172	専門基礎科目群	アロマセラピーI	2	選択					アロマセラピー（芳香療法）は、植物から抽出された精油を用いて心身の健康に役立てる自然療法であり、医療・福祉分野にも応用されている。本授業では、アロマセラピーの基本や香りの解剖生理学的作用、香りの歴史、関連する法律などを学び、専門的知識を身につける。さらに精油の香りを体験し、健康維持やストレスコントロールに生かすとともに、持続可能な社会やスポーツ・ビジネス分野での香りの活用について理解を深める。	○				◎

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
173	専門基礎科目群	アロマテラピーII	1	選択		○			アロマテラピー（芳香療法）は、植物から抽出された精油を用いて心身の健康に役立てる自然療法であり、医療・福祉分野にも広く応用されている。本授業では「アロマテラピー」で得た知識を基盤に、解剖生理学や精油の化学的分析、予防医学について学び、専門的理解を深める。さらに、精油を用いた実習を通じて日常生活に香りを取り入れる力を養い、香りの可能性を多角的に考察する。	○			○	◎
174	専門基礎科目群	スポーツ科学C	1	選択		○			本授業では、球技を中心としたチームスポーツを実践し、スポーツの楽しさを体感するとともに、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大、ゲーム運営方法の習得を目指す。種目はティール（ソフト）ボール、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球などから3～4種目を行う。また、スポーツ科学の基礎知識を学び、安全で適切な方法によりスポーツや運動を習慣化する力を養う。	○				◎
175	専門基礎科目群	スポーツ科学D	1	選択		○			本授業では、球技を中心としたチームスポーツを実践し、スポーツの楽しさを体感するとともに、体力向上、仲間とのコミュニケーション拡大、ゲーム運営方法の習得を目指す。種目はフットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インドアカ、インドアテニスなどから3～4種目を行う。また、体力づくりやスポーツに関連する科学的知識を学び、安全かつ適切にスポーツや運動を習慣化する力を養う。	○				◎
176	専門基礎科目群	心と身体の科学	2	選択	○				本授業では、人間が加齢に伴って身体的にどのように発育・発達し老化していくのか、また心理社会的にどのように発達していくのかを学ぶ。特に、スポーツや運動が心身に及ぼす影響を考察し、身体の科学としては老化のメカニズムやライフステージに応じた運動方法を探る。さらに、心の科学としてメンタルヘルス、精神障害、睡眠障害に関する基礎知識を学び、心身の問題を科学的に捉える力を養う。	○				◎
177	専門基礎科目群	健康管理概論	2	選択	○				本授業では、現代社会を取り巻く環境と健康との関係を明らかにした上で、主に疾病（生活習慣病など）や健康の維持・増進が運動とどのように関わるかを理解することを目的とする。さらに、授業を通じて健康増進に向けたこれまでの取り組みや、日本の施策・法律を学び、各国との比較検討を行う。加えて、近年のITを活用したパーソナルヘルスレコードやSNSによる健康増進についても学習する。	○				◎
178	専門基礎科目群	ミクロ経済学の基礎	2	選択	○				本講義は、経済学を始めて学ぶ学生を対象に「ミクロ経済学的思考」を身につけさせる。そのために、ミクロ経済学の基本的な用語や概念などを説明できる、個々の経済主体の行動や市場メカニズムなどを説明できる、ミクロ経済学を現実の経済問題に当てはめながら実体経済について自ら分析することができることなどの習得を目指す。		◎			
179	専門基礎科目群	マクロ経済学の基礎	2	選択	○	○			本科目はマクロ経済学に関する基礎的な知識や理論などを身に付けて、実体経済の仕組みやその動きを説明できるようになることが主目的である。その目的に向けて、本科目で身に付けた基礎的な知識や理論などを使って、実体経済に関連するさまざまなニュースや過去の出来事を調べ理解し、調べたことを言語化し説明できるようになる。	◎				
180	専門基礎科目群	ファイナンスの基礎I	2	選択	○				本授業ではファイナンスの第一歩として、まずは不確実性のない（明示的に考慮しない）世界でのファイナンスについて学ぶことが主目的である。具体的な内容はファイナンスを理解するうえで必要なこれまで習ってきた数学や記述方法を復習したうえで、初歩的な金融論、金利、債券価格、NPVによる評価手法について学修する。	◎				
181	専門基礎科目群	ファイナンスの基礎II	2	選択					本授業ではファイナンスの基礎Iで学んだ内容を基礎として、不確実性を考慮することで見えてくる世界のファイナンスについて学ぶことが主目的である。具体的な内容は不確実性を取り扱う確率論や統計を復習し、実体経済のありようを考慮する必要を認識したうえで、株式投資、株式分析、デリバティブなどの近年の最新金融技術の基礎を学ぶ。	◎	○			
182	専門基礎科目群	グローバル・コミュニケーション総論	2	選択	○	○			急速に進んでいるグローバル社会において必要とされるコミュニケーションの基礎理論と知識を学修する。ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル移動が容易になり、海外とビジネスを行う機会が増えている中で、コミュニケーションや文化はどのような役割を果たしているのかについて理解する。グローバル組織で最も大切な双方向でのコミュニケーション能力を養うことを目標とする。	◎	○			
183	専門基礎科目群	Data Science	2	選択		○	○	◎	This course provides advanced statistical methods for Causal Inference and Econometrics analysis. Students will also have hands-on experiences on R programming languages, to apply those methodologies to real world data. No programming skills are required. We also welcome those who are interested in programming and data scientists.		◎	○	○	
184	専門科目群I	経営戦略論	2	選択	○	○			本講義では、伝統的な経営戦略論の理論や研究成果を中心に戦略的な考え方について理解・修得すること目標とする。また、これまでの研究で蓄積された良質な事例を紹介しながら、経営戦略の実践的なテーマやトピックについても扱い、理論と実践の両面から理解を深めていく。講義の節目で講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、ケーススタディを取り入れる予定である。	◎		○		
185	専門科目群I	経営管理総論	2	選択	○	○			経営学は実際の企業経営や組織運営の現場やそこで働く人間を対象とした応用科学という側面があり、さまざまな理論や考え方があろう。こうした経営学の諸理論のなかでも時代を越え、現代のマネジメントの現場での実践において有益と思われる原理原則・理論・フレームワークなどをテーマ・トピック別に紹介する。講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、適宜ケーススタディ(事例研究)を取り入れたいと考える。	○	○			◎
186	専門科目群I	人事労務管理論	2	選択	○				日本企業の人事労務管理の特徴といわれている終身雇用、年功序列、企業内組合といった「日本的雇用慣行」が、どのようなプロセスを経てわが国に定着し、どのように変化しつつあるのかを、海外の雇用管理の特徴と比較しながら明らかにする。「正社員と非正社員との格差」「若年離職」「ブラック企業」「過労死・過労自殺」「リストラ」等現実の労働問題に関するトピックを取り上げ、「日本的雇用慣行」との関係から解説を加える	○	○			◎
187	専門科目群I	経営組織論	2	選択	○				本講義で経営組織論の理論や研究成果(事例研究など)を中心にヒトや組織のマネジメントを体系的に理解・修得することを目標とする。また、受講者の身近なヒトや集団・組織に対して応用することを通じ、身近な事例の理解や考察を深めていく契機にしてもらいたい。適宜、具体的な事例を紹介し、実践的なテーマやトピックについて理論と実践の両面から理解を深めていきたい。	◎	○		○	○
188	専門科目群I	金融論	2	選択	○				金融とはお金を融通することであり、経済主体が相互に資金を調達し使用することによって円滑な経済活動を支える役割を担っている。世界的な金融危機、為替や株価の変動といった全体的なことから、電子マネーやキャッシュレス決済といった消費活動など、金融は我々の日々の生活に深く関係している。本講義はこれら金融に関する理論や専門用語などを理解し、経済事情の変化と未来について考える力を身につけることを目的とする。	◎	○			◎
189	専門科目群I	国際マーケティング論	2	選択	○	○			マーケティングの基礎を学び、国際マーケティングにおける諸問題を考察することを授業の狙いとしている。企業の経済活動と国際経済の関係について学び、国境を超えて活動する多国籍企業の動向を学ぶことを通じて、広い視野から物事を判断できるようになってもらいたい。多国籍にビジネスを展開する企業のマーケティングとは如何なるものなのかを考え、また企業はどのような問題に直面し、どのように問題を解決しているのかを学ぶ。	◎	○			○
190	専門科目群I	International Marketing	2	選択		○			In this course, we will study and gain an overview of multicultural marketing and the dynamics of a diverse marketing environment, identify target consumers, and examine the best ways on how to reach these consumers.	◎	○			○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
191	専門科目群I	起業マネジメント論	2	選択	○				本講義では、経営者視点から経営環境に適応した経営計画づくり、事業継続と発展への取組みという一連の事業運営について概観し、分析・考察ができることを主な目標とする。また事例研究では業種別の起業計画に関する評価を行うことによって、事業計画書づくりにおける応用・実践力を高めていくことを学ぶことを目標とする。	◎	○			
192	専門科目群I	国際経営論	2	選択	○	○			経済および経営の国際化の進展にともない、主にアメリカで発展したのが国際経営論である。国内経営（Domestic Management）との対比を出発点として、おもに多国籍企業によるグローバルな経営活動の諸側面を研究対象とする。国際政治や国際法、国際経済動向も重要な研究対象の一部となり、その史的展開を学習した上で、現代の企業が抱える国際経営問題を考察していく。	○	○		◎	
193	専門科目群I	中小企業論	2	選択					日本の中小企業・小規模事業者数は、357.8万者とされ、実に全体の99.7%を占める。またこれら中小企業・小規模事業者の従業員数は約7割を占める。本講義では、この中小企業をめぐる経営環境や動向などを「中小企業白書」を中心にファクトベースで理解することから始める。また中小企業の経営課題や先進事例の具体的な分析・考察を通じて、中小企業の役割と経営活動の特徴について実践的に理解を深める。	◎	○	○		○
194	専門科目群I	ファイナンシャルプランニング論A	2	選択					ファイナンシャルプランニングの基礎およびFP資格6教科の中で2教科を学ぶ。ファイナンシャルプランニングの必要性とその手法について理解し、FPの社会的意義を学ぶ。金利計算、資金計画に必要な係数の利用方法、社会保障制度の医療、年金制度、税体系と制度、所得税の計算方法を学び単なる知識習得ではなく、国の諸制度を理解する。	○	◎			◎
195	専門科目群I	ファイナンシャルプランニング論B	2	選択					本講義ではFP論Aに引き続きFP検定6科目のうち4科目（リスクマネジメント・金融資産運用・相続・不動産）を重点的に学習する。保険の基礎的知識から必要保障学の算出方法、各種金融商品とそのリスクについて正しい知識を学ぶ。これら知識の修得は望ましい金融行動につながる。人生100年時代の私達の生活に必要な資金をどう運用し活用するか包括的に学ぶ。	○	◎			◎
196	専門科目群I	地域振興論	2	選択	○	○			国土の7割を占める中山間地域は、森林資源や海洋資源といった再生可能な資源が豊富にある。「持続可能な社会」実現のためには、こうした中山間地の再生資源を活用することが重要である。本講義では、RESASを活用したビックデータと学生自らの調査による地域資源の可視化、評価を行い、地域社会の課題を抽出し、活性化に向けたアイデアを考案する。以上を通じて地域振興に関する知識だけでなく、課題解決する力を養う。	○	◎		○	○
197	専門科目群I	国際経済学	2	選択	○				本講義では国際マクロ経済および貿易論の理論的解説を行う。重要なデータの分析手法を身につけた上で、日本と世界の経済構造の変化や為替レートの基礎知識を学ぶ。後半は貿易論の基礎的理論を学びながら、現在の国際経済体制が構築された歴史的経緯を理解し、近年の国際経済における諸問題を通して理論的解説と現実の政策について理解を深める。	○	◎			○
198	専門科目群I	ミクロ経済学	2	選択					本講義は、ミクロ経済学の基礎理論を修得することを目標とする。市場の機能と貨幣の役割について考察し、価格決定メカニズムにおける消費者と生産者の最適行動を理論的に解説していく。現実の経済現象を理解するためには基礎的経済理論の理解が不可欠であるが、実際の経済事象とも関連づけて理解、解説ができるようになることも本講義の目的である。	○	◎		○	○
199	専門科目群I	Introduction to Microeconomics	2	選択					This course provides theory and application of microeconomics at introductory level. We will make use of theories and empirical examples to understand key microeconomic concepts that take place in the world economies. The topics to be covered include, but not limited to, demand and supply, consumer choices, firms' market power and cost structure, firms' investments and business strategies, the role of antitrust law and regulation, labor and financial markets, and international trade.	◎		○		
200	専門科目群I	マクロ経済学	2	選択					マクロ経済学は国家単位あるいは国際的な規模で生じる経済現象を理論的に説明するものである。よって数学モデルの解析が不可欠となる。本講座では基礎的なケインズのマクロ経済政策を学習し、その後、グローバル化下における経済政策の有効性や、日米など各国の事情に応じた経済政策について考察を進めていく。公務員試験の問題を取り上げ、一般的な公務員試験の問題を70%以上正答できるようになることを目標とする。	◎				○
201	専門科目群I	Introduction to Macroeconomics	2	選択					The Great Financial Crisis in 2028 and the devastating outbreak of COVID-19 have demonstrated that the macroeconomic fluctuations play much more critical roles in shaping our lives than ever before. In this class, we will read a standard macroeconomics textbook to acquire the basic framework to understand the economy as a whole. After successfully completing this lecture series, students are expected to be able to "think like an economist."	◎		○		
202	専門科目群I	財政学	2	選択					本講座は財政学の基本的理解を目指すものである。財政学は経済学を基本としているが、政治学、行政学、法学、など様々な諸学問と関わる総合的な性格を有する特徴が学問分野であるとも言える。このようなことから財政の歴史、租税制度、公債論、社会保障制度、公共財供給、諸々の経済政策や社会政策など幅広く講義を行う。	◎				○
203	専門科目群I	民法	2	選択					民法は民法学の基本法として、我々の日常生活に幅広く、且つ深く関わっている特徴を有している。本講義は、民法典の総則編・物権編を学習していく。また、民法に対する理解を助けるためにできるだけ多くの事例を紹介しながら学習していく。学習内容が広範囲にわたるため、テーマ別にメリハリをつけて学習していくことを予定している。	◎	○			○
204	専門科目群I	商法	2	選択					現行商法における商法総則・商行為法の部分や企業資金決済に関わる重要な法規である手形・小切手法、さらには社会人に求める基本のビジネスに関わる幾つかの重要法規を学習していく予定である。聴講生理解を向上させるため、できるだけ多くの事例を紹介しながら進めていく。併せて、ビジネス法務の部分については資料配布して学習していく。	◎				○
205	専門科目群I	会社法	2	選択	○				会社法は千を超える条文によって構成され、学習範囲が極めて広いため全ての部分を講義できないが、会社法の重要なテーマである設立、株式、機関制度などのテーマを中心にメリハリをつけて講義していく予定。講義を受講する諸君に対し、受講内容をより理解してもらうため、会社法は学生にとっては理解しにくい法律と思われることから、授業では指定した基本テキストを使用。	◎	○	○	○	○
206	専門科目群I	税法	2	選択					税は私たちの生活とは切り離せないものであるが、税法は六法等と比較すると、なじみの薄い法律ともいえる。しかし、私たちの生活とって欠くことのできない法律でもある。この授業では、税の歴史、基本原理、税に関する理論を理解したうえで、税制について学んでいく。難解といわれる法律用語をできる限り分かりやすく簡潔に解説し、学生の皆さんが興味を持てるような具体的事案を通じて税法への理解を深めていく。	◎				○
207	専門科目群I	国際法	2	選択					「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。	◎			○	○
208	専門科目群I	情報化戦略とマネジメントB	2	選択					情報処理技術者試験の「基本情報技術者試験」におけるストラテジー分野について解説をする。受講者が「基本情報技術者試験」の合格レベルに達するようにするのが、本授業の到達目標である。企業と法務（企業活動、企業会計、経営科学、法務と標準化）、経営戦略（経営戦略・技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ）を学ぶ。	◎				○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
209	専門科目群I	ビジネスデータ分析A	2	選択	○	○			本授業ではMicrosoft Excelを用いて、定量データの取り扱い方法とそれを利用した分析方法やグラフの作成方法、初歩的なVBAの使い方を学ぶ。Excelを自由に操作できるようになることを到達目標とする。内容的にはゴールシークやソルバーを用いた最適化、基礎的な統計分析、簡単なモンテカルロシミュレーション等を含む。	○	◎			
210	専門科目群I	地域生態系保全論	2	選択					地域生態系は、地域の地誌的な環境とそこに生息する生物の総体として成り立つ生態系である。本講義では、保全生態学の基礎を学んだ上で、地域の自然環境における現状と課題を整理し、生態学的な観点からその保全と活用について考える。特に近年、地域の自然環境が住民のアメニティーや教育、また防災などを支えるインフラとしての機能を持つことが再評価されている点について学ぶ。	◎				○
211	専門科目群I	ゲーム理論	2	選択				○	ゲーム理論は、数学者ジョン・フォン・ノイマンと経済学者オスカー・モルゲンシュテルンの著作『ゲームの理論と経済行動』に起源をもち、複数の利害関係者が関わる状況における行動や制約を数理的に解析する手法を提供する。経済学をはじめ、幅広い分野で活用されており、特に経済学においては不可欠な理論である。本授業では、その基礎を理解することを目的に、主として非協力ゲーム理論を学習する。	◎				○
212	専門科目群I	消費者行動論	2	選択	○				日々私たちが行う消費という行為がどのようなメカニズムで生じているのかを、自分の頭で考えるきっかけを提供することが本講義の大きな狙いであり主目的である。ただ単に一方的に「お勉強」するのではなく、学んだことを自らの行動も含め、消費行動の緒概念や緒理論などを具体的な消費現象や行動に当てはめて分析できるようになることを目指している。	◎	○			○
213	専門科目群I	財務諸表論	2	選択	○				財務諸表論Aでは、株式会社の制度的な特徴を十分に理解してもらうと共に、現行の制度会計(特に会社法会計)の視点から会社計算規則と会計基準との異同を明らかにし、個別財務諸表(会社法上の計算書類)の作成プロセスとその利用方法を説明する。また、本講義では実定法である会社法と社会的な合意規範である会計基準との対峙すなわちある種の緊張関係を具体的な会計処理の"異同"を示すことで明らかにしていく。	◎	○			○
214	専門科目群I	原価計算論I	2	選択					原価計算の主要な目的は、それぞれの時代の利害関係者の情報要求によって、大きく変化し現在に至っている。それゆえ原価計算は実務に直結した学問である。この授業では、それぞれの目的に対応する原価計算の基本的な理論を理解し、具体的な計算方法を学び、その計算過程や結果を意思決定に役立てられる能力の修得を目指していく。学習するテーマは、原価概念、費目別計算、製造間接費の配賦、製品別計算を対象とする。	◎	○			○
215	専門科目群I	原価計算論II	2	選択					原価計算は、企業の経営管理者が企業活動を計画し、統制するために不可欠なツールである。これは原価計算が単に製品原価に関する情報を提供するだけではなく、企業の経営管理にもその対象を拡大させていることを意味する。この授業では、原価計算の基本的理論を理解し、具体的な計算を学ぶことで、意思決定能力の修得を目指していく。学習するテーマは、総合原価計算の応用・原価管理・利益管理・CVP分析の基本を対象とする。	◎	○			○
216	専門科目群I	財務分析	2	選択					財務分析とは、財務諸表を用いて対象企業の経営状況を診断することを指し、典型的な「会計情報を使う」分析技術となる。金融機関や事業会社の経理・財務部門においては、当該技術によって各会社の収益性・流動性・成長性・生産性の分析を行っており、その業務の根幹をなしている。本授業では経営分析論の基礎的な知識を身に着け、実際の財務諸表から各種の指標を用いて簡単な経営分析を行えるようになることを到達目標とする。	◎	○			
217	専門科目群I	コーポレートファイナンス	2	選択					ファイナンスやコーポレート・ファイナンスに関する基本的な用語の意味を理解し、事業評価や企業価値評価などで利用される基本的な評価モデルを使って企業価値評価ができるようになることである。多くの企業にとって財務活動は、経営上で必要不可欠な行為となっている。企業の資本調達と運用、その結果として企業の価値(株価値)がどのように向上するのかを明らかにしていく。	◎	○			○
218	専門科目群I	ビジネスデータ分析B	2	選択					定量的なデータの取り扱い、現在のビジネスにおいては必要不可欠である。本授業ではR言語とRStudioを用いて、こうした定量データの取り扱い方法や、それを利用した様々な分析方法やグラフの作成方法、R Markdownによるレポート作成方法を学び、R言語の基礎を幅広く理解する。基本的な統計値の求め方から、グラフの描画、回帰分析、企業の財務データとその分析等を行う。	◎	○			
219	専門科目群I	情報セキュリティB	2	選択				○	ITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきた。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度などを踏まえ、情報セキュリティマネジメントを理解することを目標とする。	◎	○			○
220	専門科目群I	アルゴリズムB	2	選択					アルゴリズムaでの学修を踏まえ、更に高度なアルゴリズムの理論を学ぶ。実用的レベルの処理のアルゴリズムが構築できることを目標とする。イベントチケットのキャンセル待ちを処理するプログラムや、大量データを如何に利用しやすく蓄積するか、またその巨大データ群から必要なデータを発見するにはどうすればよいかなどを学ぶ。	○	◎			
221	専門科目群I	プログラミングB	2	選択				○	本授業は「プログラミングA」を履修していることを前提として進める（必須ではない）。扱う言語は、現在幅広く利用されているPythonである。前半ではプログラミングAの内容を復習したうえで、リストやタプル、辞書、集合といったデータ構造や、関数の基本とその活用を学ぶ。後半ではオブジェクト指向の基礎を取り上げ、例外処理やファイル処理を通じて応用的なプログラミング技法を身につける。	○	◎			
222	専門科目群I	ビッグデータとデータマイニング	2	選択				○	本授業では、現代社会において重要性を増すビッグデータとデータマイニングについて学ぶ。膨大なデータから有益な知見を導き出すための基本的な考え方を理解し、データの特性や適切な扱い方を身につけることを目指す。さらに、具体的な事例や応用の可能性を取り上げることで、データ活用の意義を考察し、社会やビジネスの多様な場面で活かせる課題解決力を養う。	○	◎			○
223	専門科目群I	異文化コミュニケーション論	2	選択	○	○			国境を超えてビジネスを展開する企業組織で働くには、多様な文化を理解し、対応能力CQ (Cultural Intelligence) を高めていく必要がある。本講義では、異文化コミュニケーションの基本知識と主な理論を紹介する。また、様々なビジネス場面での異文化コミュニケーションスキルを養う。異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる力を身につける。	○	◎	○	○	
224	専門科目群I	異文化組織マネジメント	2	選択					異文化組織マネジメントの基礎理論を紹介する。異文化組織に関わる課題、特に文化の違いから生まれる諸課題を検討する。さらにグローバル戦略において、文化の違いが組織に影響を与える重要性を認識し、多文化組織でのコミュニケーションの取り方を理解する。そして問題解決方法のシナジーを把握し、異文化間リーダーシップ、動機づけ、意思決定、国際交渉などの理論を理解し、グローバル・キャリアの土台を構築する	○		◎		
225	専門科目群I	Introduction to Global Management	2	選択					This is an introductory course in which basic management concepts will be introduced from a cross-cultural perspective. Students will be expected to increase their understanding of human behavior within a global work environment and to develop their skills of good reading habits in English. Students will be also expected to comprehend the importance of possessing a global way of thinking which may help them to prepare for their future careers in a worldwide business setting.	○		◎	○	

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
226	専門科目群I	Theory of Cross-cultural Communication	2	選択		○			This course provides an overview of key concepts in intercultural communication, with a focus on verbal communication styles, nonverbal communication, and major theoretical perspectives. Students will examine how identity is shaped and transformed through cultural mobility and intercultural encounters, as well as explore the diversity of cultural values.	○	◎	○	○	
227	専門科目群I	体づくり運動	1	選択		○			本授業では、「体づくり運動」の意義を十分に理解した上で、「体ほぐしの運動」について、用具を用いない運動とボールなどの用具を用いる運動に分けて学ぶ。また、「体の動きを高める運動」や「実生活に生かす運動の計画」では、持久力・筋力・柔軟性・巧緻性を向上させる運動を行い、それを日常生活にどのように生かすかについて学ぶ。さらに、それぞれの運動に関する指導法を学び、実践的に身に付けていく。	◎			○	
228	専門科目群I	器械運動	1	選択		○			器械運動では、初級から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や補助の体験を通して指導法に関する知識を身につけることを目的とする。さらに、安全面への配慮を踏まえ、基礎的な知識の発展や応用を図り、正しい基礎知識と運動構造の理解を深める。本授業では、学生同士が知識や運動構造を伝え合う場面が多く求められるため、コミュニケーション能力を養い、幅広い知識と教養の育成を目指す。	◎			○	
229	専門科目群I	陸上競技	1	選択		○			運動の基本である走る・跳ぶ・投げることについて基礎を身につけ、所定の技能到達目標を達成する。また、集団行動を通して視野を広げ同調性を養うとともに、その指導法を学ぶ。さらに、器具の取り扱いや安全管理を修得し、リスクマネジメントの理解を深める。加えて、走る・跳ぶ・投げるを記録と関連づけて学び、陸上競技の歴史、競技方法、トレーニング方法、ルールなど幅広い知識を身につける。	◎			○	
230	専門科目群I	水泳	1	選択		○			本授業の到達目標は、水泳における4種目（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の泳法を習得するとともに、50m複数種目泳を完泳できるようにすることである。また、水泳や水中運動に関する基礎的な理論を理解し、水泳4種目および水中運動（アクアビクス、水中レジスタンス運動）の指導が行えるようになることを目指す。さらに、本授業では、水上安全救助法についても学ぶ。	◎			○	
231	専門科目群I	サッカー	1	選択		○			本授業では、サッカーの競技特性を理解しつつ、サッカーを通じて豊かな生涯スポーツを継続するための資質や能力を育む。また、到達目標とする競技レベルについては、中学生・高校生を対象としたサッカー実技指導に必要とされる基本技術や技術を習得する。さらに、習得した技能や技術を基盤として、サッカーの指導方法を身につけることを目的とする。	◎			○	
232	専門科目群I	バスケットボール	1	選択		○			本授業の到達目標は、バスケットボールの①基本的な技術、②ルールや競技特性などの基本的な知識、③指導方法を、体育の実技指導を行うために必要な水準まで習得することである。授業では、基本的な技術を学び、ルールや競技特性への理解を深めつつ、バスケットボールの楽しさや難しさを体験する。さらに、技術や知識の習得過程で得た知見や、自らの成功やつまずきの経験を授業づくりに生かし、指導計画を作成して実践する。	◎			○	
233	専門科目群I	バレーボール	1	選択		○			本授業では、バレーボールの特性やルールを正しく理解し、学校教育における必要性や意義を説明できるようになること、個人技能の習熟を目指すこと、作戦を生かした攻防を展開してゲームを行う力を身につけること、さらに歴史・審判法・運営法を学び、授業に必要な指導法を習得することを目標とする。また、健康と安全に留意し、練習やゲームを安全に実施するための方法も学ぶ。	◎			○	
234	専門科目群I	ソフトボール	1	選択		○			ソフトボールの基本技術を学び、対象者やグラウンドなど状況に応じて適切なベースボール型球技をカリキュラム・マネジメントできるようにする。また、指導法を修得し、グループやチームで相互に実践する。さらに、野球やソフトボールの歴史や現状を通して、日本におけるベースボール型球技の親しみやすさを理解する。加えて、中学校や高等学校での実施に必要な安全管理、ルール、戦術を学ぶ。	◎			○	
235	専門科目群I	柔道	1	選択		○			日本で生まれた柔道は、現在では世界中で愛されるスポーツへと発展している。本授業では、その柔道をスポーツ・武道・教育の側面から多角的に学び、教育の幅を広げることを目的とする。教育面では柔道の歴史や理念、武道面では礼法と受身、スポーツ面では立技と寝技の習得を行う。特に礼法・受身と技の習得を重視し、最終的には試合形式での乱取りが可能な段階まで習得を目指す。	◎			○	
236	専門科目群I	ダンス	1	選択		○			ダンスは、リズム感や身体操作能力を高めるうえで有効である。さらに、感情を込めて踊ったり集団で踊ったりすることで、仲間との交流を深めることができる。本授業では、学校体育で行われるダンス（創作ダンス、フォークダンス、現代的リズムのダンス）やエアロビックダンスについて、その知識・技能および指導法を学ぶ。また、課題に応じたグループでの創作・発表・鑑賞を通じて、協調性や課題発見力、解決力を養う。	◎			○	
237	専門科目群I	スキー	1	選択		○			講義でスキーの基礎を学び、集中講義として3泊4日の実習を行う。初心者にはスキーに慣れることから始め、制動、ブルークローゲン、ブルークターンを習得し、リフトを利用して様々な斜面をコントロールしながら安全に滑れるようにする。経験者は、それぞれのレベルに応じてスキー技術や身体操作能力を高め、安全で確実な技能を身につける。さらに、事前講義でスキーの安全についても学ぶ。	◎			○	
238	専門科目群I	運動学(運動方法学を含む)	2	選択					授業では、体育授業やスポーツ指導の現場における問題を取り上げる。このとき、「どのようにすればできるようになるか」という学習者の課題と、「どのようにすればできるようにさせられるか」という指導者の課題があり、その解決には運動を身体で理解し、考えることが重要となる。運動学では、そのような運動に対する考え方を学び、運動を身体で理解し、さらに学習者に教える力を養う。	◎				○
239	専門科目群I	体育史	2	選択					知育・徳育・体育は教育の三本柱である。その中で体育は、スポーツを通じて発展した文化的な営みであり、深い歴史を持つ。本授業では、その体育についてスポーツの起源と発展を時代背景に沿って学び、欧米と日本を比較しながら思想の違いや実践・応用の在り方を理解する。さらに、現代社会における健康やスポーツ文化との関係を考察し、その意義や役割を再認識するとともに、心身の健康に及ぼす教育的効果を理解する。	◎				○
240	専門科目群I	スポーツ心理学	2	選択					運動・スポーツは、気分や自己概念、パーソナリティなど心理面に影響を与える。また、運動・スポーツを実践・継続するには、動機づけの方法や行動変容理論を理解することが重要である。さらに、競技者や指導者にとっては、心の状態を適切にコントロールすることが好成績をあげる条件となり、メンタルマネジメントの技法が有効に働く。本授業では、運動・スポーツの実践者、競技者、指導者の立場からスポーツと心の関係を学ぶ。	◎				○
241	専門科目群I	運動生理学	2	選択					一過性の運動によって生じる身体の生理的応答や、継続的な運動（トレーニング）による機能や形態の変化（適応）について学ぶ。主に筋系、神経系、呼吸器系、循環器系を中心に、そのメカニズムを理解する。さらに、運動時の身体の働きを把握するためのパフォーマンステストに関する知識や方法を学ぶ。そして、生理学的知識を基盤として、健康づくりに役立つ運動プログラムの基本的な考え方を習得する。	◎				○

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
242	専門科目群I	解剖生理学	2	選択					本授業では、人体の構造と機能について、解剖学と生理学の学問領域から学ぶ。主に、各器官系（神経・感覚器系、内分泌系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系）の構造と機能を理解するとともに、運動器（骨格と筋）の構造と動きの特徴について学ぶ。これらを通して、身体の働きを科学的に説明できる基礎を養い、運動やスポーツを指導する場面で説得力のある指導を行えるようになる。	◎				○
243	専門科目群I	スポーツ栄養学	2	選択					スポーツの競技力向上や健康増進には、食事や栄養素が大きく影響することが知られている。したがって、スポーツ指導者にも食事や栄養に関する一定の知識が求められる。本講義では、指導者として必須となる栄養学の基礎を学び、科学的根拠に基づいて食事や栄養に関する情報を分かりやすく伝え、スポーツや健康づくりの現場で活用できる力を養う。	◎				○
244	専門科目群I	救急処置(実習を含む)	2	選択		○			救急処置は、事故や病気から自分自身や大切な人を守るために欠かせない知識と技術である。生涯にわたりスポーツや運動を楽しむには、救急法の知識と技術が不可欠である。さらに、指導者にはスポーツ事故のリスクマネジメントを行い、発生時には直ちに救急処置を実施する力が求められる。本授業では、心肺蘇生とAED、内科的な急性・慢性障害への対応、整形外科的障害や外科的救急処置などについて、理論と実践を学ぶ。	◎				○
245	専門科目群I	スポーツ経営学	2	選択					体育・スポーツにおいては、人の管理、施設・用具の管理、財務管理など経営学的な視点が不可欠である。本授業では、スポーツ経営に関連する法律や制度を学ぶとともに、スポーツ行政、スポーツ用品産業、企業とスポーツ、民間・公共スポーツ施設の運営、スポーツスポンサーシップ、スポーツイベントの開催などを取り上げ、社会状況を踏まえて経営学的な観点から考察し、スポーツへの理解を深めることを目的とする。	◎				○
246	専門科目群I	スポーツアロマセラピー	2	選択		○			スポーツアロマセラピーは、植物から抽出された精油を用いて心身の健康を支える自然療法であり、近年はアスリートのケアから子供・高齢者のサポートまで広く活用されている。本授業では、アロマセラピーの基本や香りの生理作用を学び、スポーツ時や休息時などのコンディショニングに生かす方法を実践的に習得する。さらに、目的に応じた精油の選択や安全な使用方法を学び、スポーツ・健康・日常生活への応用力を養う。	◎				○
247	専門科目群I	体カトレーニング実習	1	選択		○			生涯にわたり健康な生活を営むためには、柔軟性・筋力・全身持久力といった体力要素が特に重要となる。健康づくり運動の指導者には、これらの体力要素を安全かつ効果的に指導できる力が求められる。本授業では、柔軟性を高めるストレッチング（静的・動的）、筋力を向上させるレジスタンストレーニング（フリーウエイトやマシン）、さらに全身持久力を向上させるエアロビクトレーニングについて、その理論と方法を学ぶ。	◎				○
248	専門科目群I	スポーツ医学	2	選択					スポーツや健康づくりの指導者として必要な、身体運動に重要な骨や筋の名称と動きを理解することを目的とする。主に、各関節運動の名称と、それに動員される筋について学び、実際の動きを運動事例から確認する。さらに、整形外科的・内科的なスポーツ障害の予防法を学ぶとともに、リハビリテーション医学の基礎を踏まえて障害者スポーツへの理解を深める。加えて、ドーピングに関する基礎知識についても学ぶ。	◎				○
249	専門科目群I	健康運動指導法(実習を含む)	2	選択		○			本授業では、各体力構成要素の具体的な測定方法や体力テストの実際と評価を学び、得られた結果を身体活動や運動、トレーニングに応用できるようにする。さらに、測定データを基に体力特性を分析し、改善点や課題を明らかにする力を養う。また、生活習慣病予防における運動の重要性と効果を理解し、性別や年齢などの条件を考慮した、安全で効果的な運動プログラムを立案する能力を育成する。	◎				○
250	専門科目群I	衛生・公衆衛生学	2	選択					公衆衛生学は、人間集団の健康増進を目的とする実践的な学問であり、地域住民や学校の生徒などを対象に健康状態の向上を目指すという特徴がある。本授業では、疫学、感染症や生活習慣病の予防、母子保健、学校保健、精神保健など、人間集団の健康増進と疾病予防に関する方策を学ぶ。さらに、公衆衛生の現状を把握し、その向上を図るために必要な基本的知識・技能・態度を修得することを目的とする。	◎				○
251	専門科目群I	学校保健学	2	選択					本授業では、発育発達期にある児童・生徒の健康保持と増進を目的とする学校保健について、保健管理、保健教育、組織活動を中心に理解を深め、学校保健を積極的に実践する力を養う。また、授業を通じて学校保健計画、心身の発育・発達、児童生徒に多く見られる健康問題、環境衛生、安全管理、教職員の役割や組織活動について学び、健康の保持増進を図るための基礎的知識を修得する。	◎				○
252	専門科目群I	スポーツと地域振興	2	選択					地域振興の施策として、スポーツイベントやレジャー企画の運営が注目されている。本授業では、国のスポーツ振興法やスポーツ振興基本計画、スポーツ基本法およびスポーツ基本計画に基づく施策を学ぶ。さらに、地方自治体や地域におけるスポーツ振興方策、地域スポーツクラブの役割と機能について理解を深めることを目的とする。加えて、社会におけるスポーツの役割を考えるとともに、今後の地域振興策を考察する。	◎				○
253	専門科目群I	地域スポーツマネジメント論I	2	選択					地域スポーツのマネジメントには、地方公共団体のスポーツ振興策のあり方、総合型地域スポーツクラブへの期待、部活動運営に象徴される学校体育の課題など、多くの問題が存在し、その在り方に社会的関心が寄せられている。本授業では「地域スポーツ」をキーワードに現状を把握し、今後の課題について学ぶ。さらに、「総合型地域スポーツクラブ」に焦点を当て、クラブ運営への理解を深める。	◎				○
254	専門科目群I	地域スポーツマネジメント論II	1	必修		○			地域スポーツマネジメント論Iに引き続き、「地域スポーツ」をキーワードに現状を把握し、今後の課題を学ぶ。さらに、「総合型地域スポーツクラブ」に焦点を当て、クラブ運営への理解を深めるとともに、運営に関わる人材に求められる知識・情報・能力を習得することを目的とする。授業形態は、クラブ運営の活動体験を重視し、ビジネスプラン作成やポスター作製などを行う演習形式で実施する。	◎			○	
255	専門科目群II	ゼミナールA	2	必修					演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。	◎				○
256	専門科目群II	ゼミナールB	2	必修					演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。	◎				○
257	専門科目群II	ゼミナールC	2	必修					演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。				○	◎
258	専門科目群II	ゼミナールD	2	必修					演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。				○	◎

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
- DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
- DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
- DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
- DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
259	専門科目群II	ゼミナールE	2	選択					演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。				○	◎
260	専門科目群II	プロジェクト研究A	2	選択					この授業は業界研究を通して航空産業が人、モノの輸送を担うことにより、世界のGNP、雇用、国際交流人口の拡大に貢献していることを学び、航空産業の将来を見通す基礎力を養う。また、新しい航空ビジネスモデルの事例をとおりて企業人に必要な考える力を身に付ける。本講義では、航空ビジネスの基本的ビジネスの事例をとおりて、航空ビジネスがもたらす様々な社会的・経済的効果の理解を深める。				○	◎
261	専門科目群II	プロジェクト研究B	2	自由		○			健康体力づくりの指導者として必要な知識・技能・指導力を習得することを目的に授業を展開する。実技面では、レジスタンス運動やエアロビックダンスの指導を中心に行う。さらに、健康づくり施策、運動生理学、機能解剖とバイオメカニクス、栄養と運動、体力測定と評価、運動プログラムの立案、指導の心理的要因、健康づくり運動の実際、運動障害の予防や救急処置に関する知識を修得するため、演習とその解説を中心に学ぶ。	◎			○	
262	専門科目群III	教職論	2	自由					今後の教職科目の履修に際して、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観し、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（サービス・研修・身分保障など）を負っているのか」等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。				◎	○
263	専門科目群III	教育課程論	2	自由					学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的な内容（基本方針、特徴等）について、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。				◎	○
264	専門科目群III	道徳教育の理論と方法	2	自由					この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。				○	◎
265	専門科目群III	教育原理	2	自由					教育とは何か、その語源を押しさえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行っていただきたい。	○			○	◎
266	専門科目群III	教育心理学	2	自由					授業内容：前半は、教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識とスキルが必要となるのかに焦点をあて、子どもの発達の理解、発達課題、仲間関係の発達、発達と学校教育の関連について学習を進める。後半は、子どもの学習を促すには、学習にどう動機づけ、わかる授業をどうおこなうかに焦点をあて、学習とは、学習と授業の関連、授業の形態と適切な処遇、学習への動機づけ、学習を促すことと評価の関係などを考える。				○	◎
267	専門科目群III	教育制度	2	自由					歴史的アプローチとして、近代社会における近代公教育の成立と発展について欧米と日本の歩みについて概観し、現代日本の教育制度を方向づけている戦後教育改革の内容、日本国憲法の下での「教育基本法」「学校教育法」の制定と進歩的学校の形成、教育委員会制度や教員免許制度等の成立、現代日本の教育制度の諸側面（幼児教育・義務教育・中等高等教育・教職制度等）に関しても言及し考察を加えていきたい。				○	◎
268	専門科目群III	特別活動論	2	自由					特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決をおこない、よりよい集団や学校生活を目指しておこなわれる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の3つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応など、特別活動の指導において必要な知識および素養を身に付けられるようにする。				○	◎
269	専門科目群III	生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	自由					生徒指導の基本的なとらえ方、学習指導・進路指導・教育相談との関わりについて幅広く学ぶ。学校における小・中・高校生の心理や状況を把握し、それら諸々の指導がどのように行われているのか、課題や対応の仕方等について理解を深める。特に、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価の改善や推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織体制に必要な知識や素養を身に付ける。	○			○	◎
270	専門科目群III	特別のニーズ教育論	2	自由					インクルーシブ教育システムの基本的な理解を深めることをねらいとして、通常学級に在籍する障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズをもつ生徒の学習上、生活上の困難さの理解を深め、教育的支援のあり方について理解するために、インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、特別支援学校や特別支援学級などの各形態の現状と課題についてそれぞれ学習する。				○	◎
271	専門科目群III	総合的な学習の時間の指導法	2	自由					本講義は多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる特別活動の教育的な意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」などの視点をもとに、各教科等との往還的な関連や、家庭や地域と連携した組織的な対応等、そして特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。				○	◎
272	専門科目群III	教育方法論(ICT活用を含む)	2	自由		○			この授業は、「教員としての授業実践力」を修得するためにインクルーシブ教育の視点と「授業づくり」の関連性をもとに、よりよい授業づくりに向け、授業形態の歴史的な変遷、授業を成立させるための基本的な指導方法・学習方法について説明し、授業研究（学習指導案の作成、模擬授業の実践、授業検討会）を展開することで教育実習時の授業場面に役立つ「授業づくり」とそれを実践する力を学習する。	○			○	◎
273	専門科目群III	教育相談(カウンセリングを含む)	2	自由					思春期・青年期の発達は、依存と自立が混在する心理的不安定さ、アイデンティティの問題、身体的変化などが複雑にからみ合い、そうした過程を経て自己をつくる年代である。この時期の心の成長を援助するため、また心の問題を抱えた生徒に対応するため、教師として知っておきたい教育相談およびカウンセリングの基本を学習する。				○	◎
274	専門科目群III	介護等体験	2	自由		○			事前指導は、安全で効果的な介護等体験の実習をおこなうために、実習の目的や意義、留意点や守るべきマナーなどを学び理解を深める。介護等体験の実習先である特別支援学校および社会福祉施設において求められる特別支援教育や介護・支援に関する知識、障がい者や高齢者の特性などに関する知識について学ぶ。事後指導は、介護等体験の振り返りを通して、自身の目指す教師像について具体的にイメージを持てるように展開していく。				○	◎

経営情報学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
 DP 2 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
 DP 3 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
 DP 4 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
 DP 5 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
275	専門科目群III	教育実習I(事前及び事後指導を含む)	3	自由		○			教育実習は3年次までの学習経験をふまえ、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。事前指導として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践、学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。				○	◎
276	専門科目群III	教育実習II	2	自由		○			教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。	○			○	◎
277	専門科目群III	教職実践演習(中・高)	2	選択		○			教員としての意識と幅広い実践的指導力の向上を図るため、教員がもつべき使命感・責任感・社会性・対人関係能力について考察する。併せて、各教科や道徳の学習指導上の実践力の向上、さらに生徒指導の実践力（生徒理解や学級経営そして部活指導に関する領域に関して）の向上のために、大学での以下の授業と課題の探究のなかで、特にグループワークでのコミュニケーションや発表とまとめを中心とした演習でこれらの再構成を目指す。				○	◎
278	専門科目群III	保健体育科教育法I	2	選択		○			本授業では、学習指導要領に示されている「保健」「体育」の目標や内容を説明できるようになるとともに、目標に基づいた指導と評価を踏まえた授業の基本的な考え方や進め方を理解する。さらに、保健体育科の授業がどのような理論に即して実施されているのかを学習指導要領解説などを基に講義し、中学校・高等学校における「保健」「体育」の授業づくりと実践に必要な力量の形成を図る。	◎			○	
279	専門科目群III	保健体育科教育法II	2	選択		○			本授業では、学習指導要領に基づいた学習指導案を作成できるようになるとともに、演習（教材づくり）を通して実践的な指導力を身に付ける。授業では、学習指導要領に示された目標や学習内容を解説し、指導計画の作成を通じて学習内容や多様な学習方法、指導方法を考察する。これらを踏まえ、保健・体育授業を構築するうえで必要な基礎的知識を学び、授業づくりの実践力や安全に配慮した指導力を養う。	◎			○	
280	専門科目群III	保健体育科教育法III	2	選択		○			本授業では、保健・体育授業の実施計画への理解を深め、単元計画や学習指導案を作成できるようにする。また、教材づくりの視点を取り入れて指導案を作成し、組織的観察法についての理解を深めながら、より良い保健・体育授業を創出するための学習指導を考察する。さらに、模擬授業を展開することで、対人調整力やコミュニケーション力に加え、高度な応用力や表現力を身につけることを目指す。	◎			○	
281	専門科目群III	保健体育科教育法IV	2	選択		○			本授業では、各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようになることを目指す。あわせて、保健体育科で取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通じて教材化を行う。さらに、教材研究を設定・発表・再確認する活動や、優れた実践のVTRを視聴して具体的なイメージを共有・検討する活動を通して、中学校や高等学校における保健体育の授業を展開するための教員としての能力を高める。	◎			○	